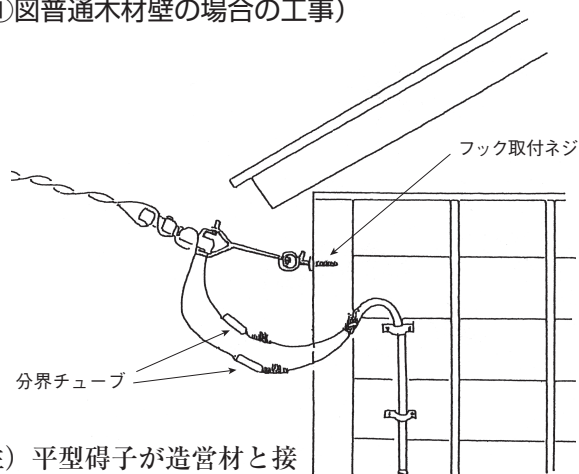


低圧碍子の工事例

平型碍子の工事

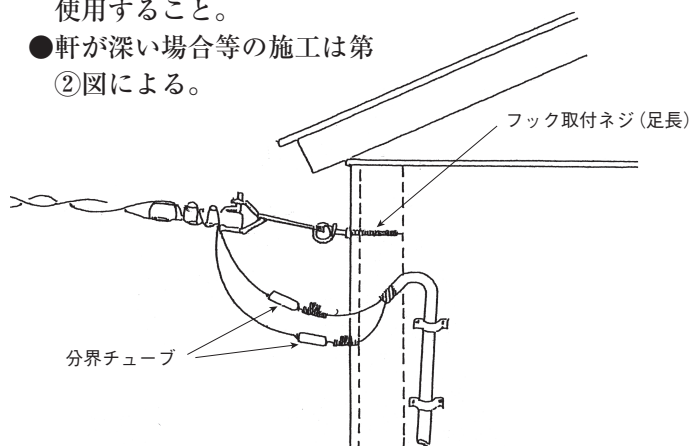
(①図普通木材壁の場合の工事)



(注) 平型碍子が造営材と接触して破損することのないようにすること。

(②図モルタル壁の場合の工事)

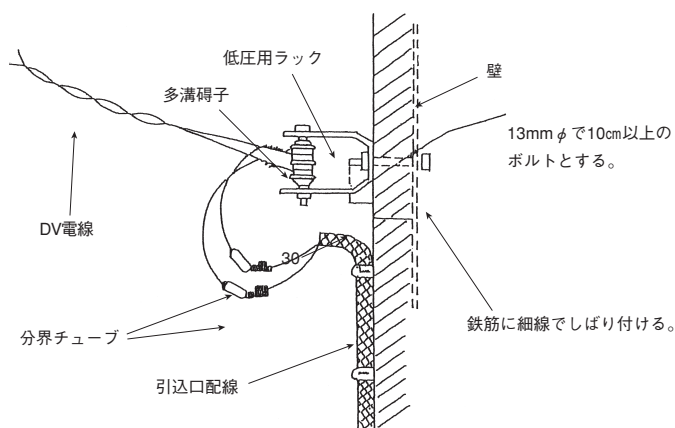
- モルタルの場合は必要に応じ足長ネジ釘を使用すること。
- 軒が深い場合等の施工は第②図による。



多溝碍子の工事

(③図コンクリート壁の場合の工事)

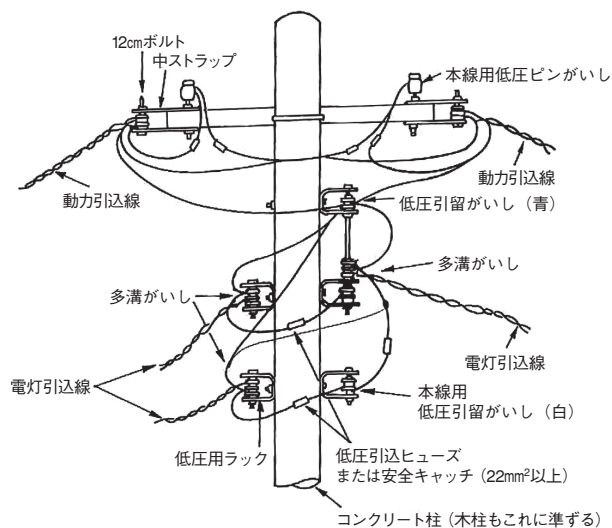
- コンクリート壁の場合は第③図の多溝碍子の方法による。



(注) 造営材が木の場合は柱等を選び、ラック止用ねじ釘で取付ける。

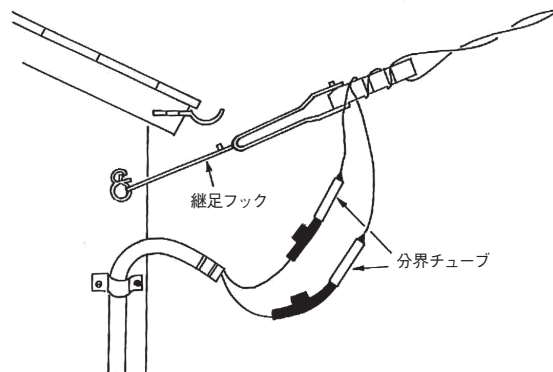
多溝碍子の工事

(DV線太さが14mm²以上の電線に適用する。)

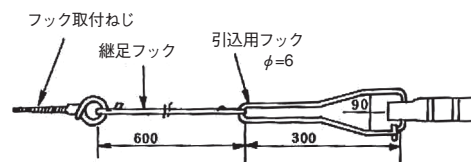


(注) 多溝碍子が45cmボルトに入らない場合は次による。
○バンドでラックを別に取り付ける。

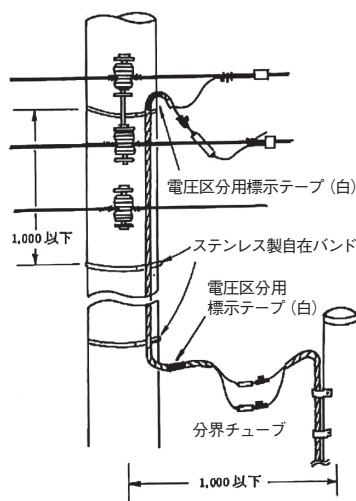
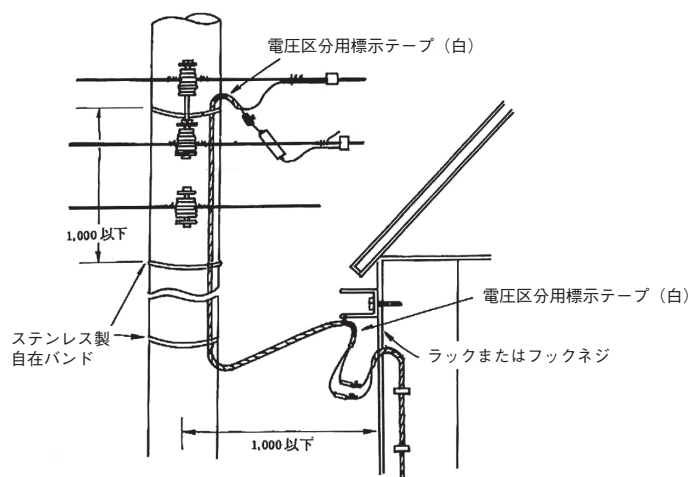
フックの工事



継足フックは、引込線が図のように軒先に接触するおそれがあるときに接触を避けるために用いる。ただし、2本以上接続してはならない。



SVケーブルによる引下引込線工事



電圧区分用標 示テープの種類	適用区分
白テープ (表示 100V)	供給電圧 100V の本線 および引込線に適用す る。
赤テープ (表示 200V)	供給電圧 200V の本線 および引込線に適用す る。

